倶多楽の火山活動解説資料（平成24年３月）

札 幌 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月１日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１-①、図２～７）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

23日に第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。

28日に実施した現地調査では、大正地獄は満水状態で少量の熱水流出が続いていました。2007年以降泥混じりの熱湯の噴出が時々発生していますが、この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・地震及び微動の発生状況（図１-②）

火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図１-③）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(http://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号　平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年４月分）は平成24年５月10日に発表する予定です。

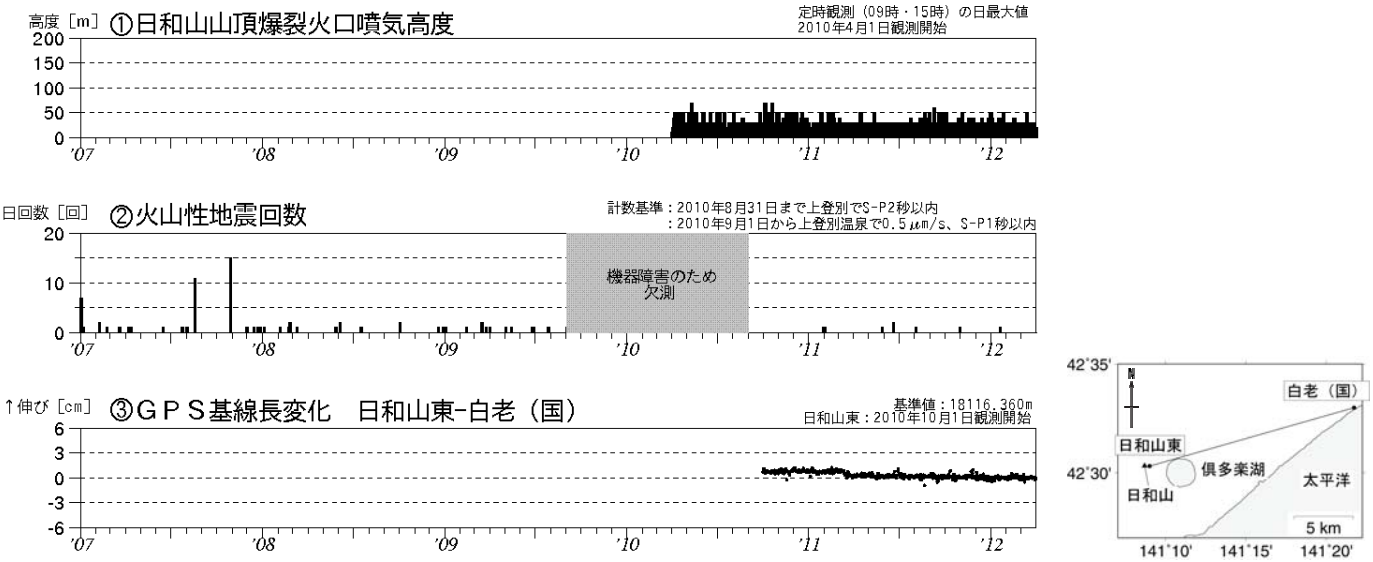

図１※　倶多楽　火山活動経過図（2007年１月～2012年３月）、GPS連続観測点配置図
・③のGPS基線は右図に対応しています
・（国）：国土地理院

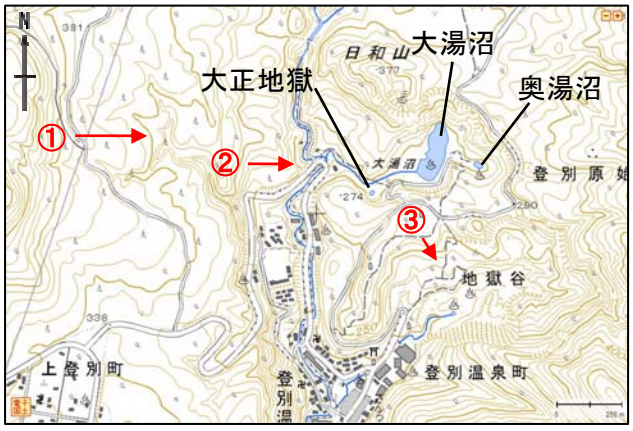

図２　倶多楽　日和山及び地獄谷周辺図と写真の撮影方向（矢印）

図３　倶多楽　火口周辺の状況
西側上空（図２の①矢印方向）から撮影

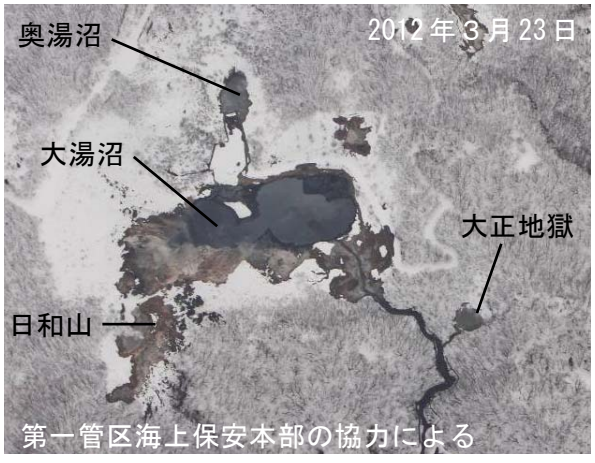

図４　倶多楽　日和山･大湯沼爆裂火口周辺の状況
西側上空（図２の②矢印方向）から撮影

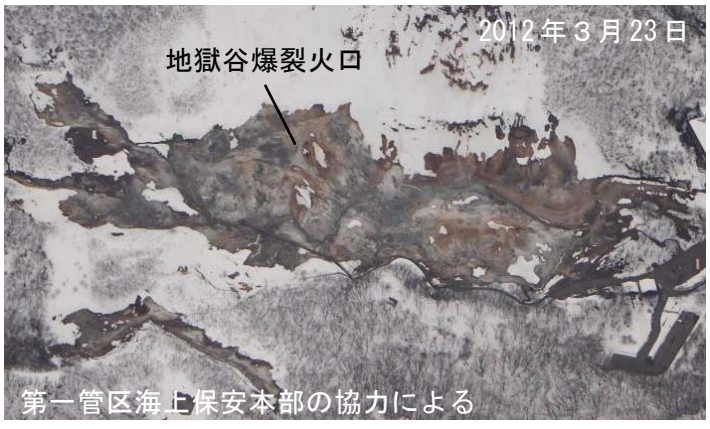

図５　倶多楽　地獄谷爆裂火口周辺の状況
北西側上空（図２の③矢印方向）から撮影

図６　倶多楽　大正地獄の状況

図７　倶多楽　日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（３月16日、414m山遠望カメラによる）

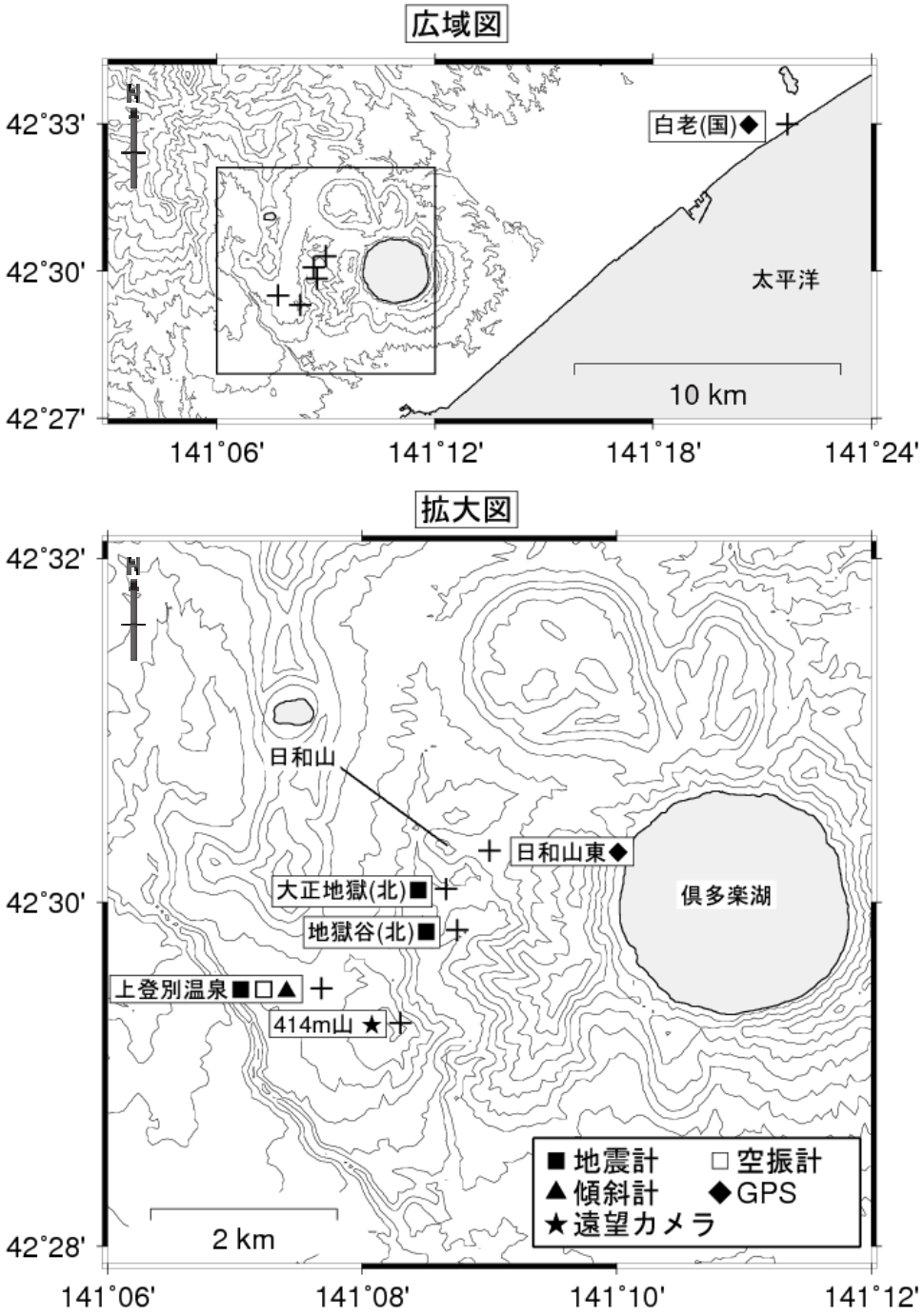

図８　倶多楽　観測点配置図
広域図内の□は拡大図の範囲を示します
＋は観測点の位置を示します
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学